

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2770300917
法人名	医療法人 協仁会
事業所名	グループホーム なごやか
訪問調査日	平成 19 年 10 月 5 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 9 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2770300917
法人名	医療法人 協仁会
事業所名	グループホーム なごやか
所在地	大阪府寝屋川市川勝町11番27号 (電話) 072-823-7667

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成 19年 10月 5日	評価確定日	平成 19年 11月 9日

【情報提供票より】 19年 9月1日 事業所 記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤 3人, 非常勤 15人, 常勤換算 16.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4 階建の	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有() 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食 700 円
	夕食	800 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(9月1日 現在)

利用者人数	27 名	男性 3 名	女性 24 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名
要介護3	11 名	要介護4	1 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.1 歳	最低 56 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 協仁会 小松病院、クリニックこまつ
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業母体である総合病院が介護老人保健施設を運営する中で、認知症患者に個別対応する必要性を感じてこのグループホームなごやかは開設された。総合病院との、また24時間対応してくれる訪問看護ステーションとの医療連携は、利用者と家族に対して大きな安心を与えている。3ユニット・27人の利用者が何かあるたびに集い、グループホームとしては“広い世間”を形成している。建物の外観からは家庭的な雰囲気を望めないが、居室や共有スペースはゆったりとしていて、手造りの壁飾りや天井からの吊るし物など随所に工夫があり、温かい雰囲気に満ちている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では①食事や水分摂取量は全員分の記録をとる②職員の申し送り実施の確認ができる書式の使用③口腔ケアについて歯科衛生士のサポート④利用者の外出機会を増やす、の4点が指摘された。評価後①②については従来の書類に必要欄を設けた。③については6ヶ月に一度医師、歯科衛生士による口腔チェック・指導を個別に受けている。④については近隣のボランティアによる外出支援を受けている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と各フロアリーダーが互いに日々活動・実践していることを自己評価項目に従って、話し合いすり合わせをしながら評価に取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 最新の会議では①現在の入居状況及び待機者の状況等②現在取り組んでいること及び当事業所の課題③利用者及び家族からの報告・要望④寝屋川市・自治会からの要望などが報告・討議された。会議の後、地域の盆踊りに参加したり、なごやかランチパーティに市高齢介護室や校区福祉委員長を招待するなど地域や市との連携を深めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居時に、家族が意見や苦情を市町村の窓口などで表せることを説明している。ご意見箱も設置しているが家族からの要望は面会時などに管理者や職員に伝えられることが多い。ホームとしてはきちんと受け止めて対応した上で、できる範囲で家族に結果を報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域ボランティアグループによる外出支援があり、老人会のメンバーが折り紙作りに来てくれている。こちらからも自治会や老人会、地域の盆踊り大会などにも参加・交流している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	もともとこの地にあった同一法人内の老人保健施設から派生的に、発展的にできた事業所であり、設立当初から地域に立脚した理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は折に触れて会議など話し合いの場に持ち出されている。玄関や職員室に掲示もされているが字が小さく、またグループホームの理念だけではないので気がつきにくい。	○	職員は理念の意味を理解し語ることはできるが、日々のケアにどうそれがつながるのか、常に意識に置いて欲しい。ホーム内に大きく理念を掲示し、家族にもアピールする工夫が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会・地域の盆踊り大会などに積極的に参加している。月一回老人会との行き来がある。また時にはランチパーティーに招待している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は一連の過程を通して、管理者始め職員全体が関わっている。評価の各項目を再点検することでケアの質の確保ができ、課題が具体的に見出せる有意義なものであることを認識している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の会議では、その時々々のホームや利用者の状況・入居待機者の状況・ホームの課題などを話している。出席者からの要望などがあれば、職員会議で話し合い改善解決を図っている。結果は次回の会議で報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	寝屋川市の地域包括支援センターの研修やグループホーム担当者会議などに出席している。その際こちらからも事業所の考え方や現場の実態を伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	”なごやかだより”を二ヶ月に一度家族に郵送し、一人ひとりの暮らしぶりを報告している。また面会時にも積極的に声を掛けて利用者の近況などを知らせ、必要があれば都度家族に連絡を取っている。個別の報告を重視している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に家族が意見や苦情を表せる窓口を紹介し、ホーム玄関にはご意見箱を設置している。しかし実際には、面会時や家族会などで意見や要望を聞き、運営に反映させている。また利用者・家族は、重要な運営推進会議のメンバーでもある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	二・三・四階の職員間で異動はあるが、普段から顔見知りとなっていて特に問題は起きていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時やその後の段階に応じた研修計画があり、内・外部研修を受講できる体制ができている。研修後は勉強会などで他職員に新しい知識や技能の確実な伝達に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の会議に定期的に参加し、学習すると共に他の同業参加者との交流を図り、情報交換をしてサービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には入居前に家族と一緒に施設見学に来てもらい、説明すると共に利用者や職員の様子を見てもらっている。また体験入居を経て入居に至った利用者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームで過ごす時間を共にしながら、職員は会話や家事を手伝ってもらう中で生活の知恵などを学ぶことも多く、笑顔やありがとうの言葉で励ましも得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとの対話から思いや暮らし方の希望を把握するように努めている。こちらから声かけをして意向を聞き出すこともあるが、困難な時は本人本位になるように配慮している。おいしいものを食べたい・買い物をしたい・郵便局に行きたいなどに、個別に対応できているのは素晴らしい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	三ヶ月に一度担当者会議をして、利用者の現状・家族の意向・今後の方針などを話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化があれば三ヶ月を待たずにカンファレンスを開き、家族の意見も聞いて見直しを行っている。一ヶ月に一度、フロア会議と全体会議をしていることもあり、利用者の変化にはほぼ即応できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々利用者や家族の要望に沿って事業所の多機能性を活かした多様な支援をしている。郵便局や檀那寺への付き添い、遠足やレクリエーションなどである。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業母体である総合病院が隣接している為、密な連携をとり医療支援は万全である。入居と同時にかかりつけ医をこちらに変える利用者が殆どである。他の病院などで受診する必要があるれば、家族あるいは職員が付き添うことにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合やターミナルについて話し合っている。またタイミングを見計らって医師や在宅医療の看護師・家族を含めた関係者全員で話し合い、看取りの方針を共有している。これまでに三名の利用者を看取った経験がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は接遇の研修を受講するなど利用者の誇りやプライバシーを傷つけない対応を心掛けている。また個人情報の取り扱いには十分注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の一日の流れは決まっているが、体調や気分に合わせて一人ひとりのリズムで暮らしているような感じを持ってもらえる様努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が、必要な人にはさりげなく介助や支援を行いながらの食事時は、冗談が飛び出したり笑い声もある楽しい光景が見られる。食事の準備や下膳なども出来る人は手伝っている。日曜日は皆で食事作りを、月に一度は皆でおやつ作りを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴が可能である。一時間以上、見守られながらゆっくり入浴する利用者もいる。浴槽は普通の大きさだが、浴室は職員が介助するのに十分な広さがあり、色々な介助用具が備えられている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月ごとの多彩な楽しみごとの予定表が壁に貼られている。共有スペースにはピアノも置かれていて、利用者や職員の演奏を楽しむことが出来る。また株式に興味があり自室にパソコンや資料を置いている人もいて、生け花やピアノなどと共に以前の生活ぶりが垣間見える。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候やその日の利用者の状態を見て、散歩やごみ捨てに外へ出てもらっている。近くのレストランや喫茶店へ出かけることもあり、また週に一度は地域のボランティアによる外出支援もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周辺の交通量が多いホームの立地条件から施錠している扉が多い。しかし管理者や職員は鍵を掛けることの弊害をよく理解しており、その中にある閉塞感を利用者が感じないように外出の機会を増やすことを心掛けている。	○	管理者・職員とも、ドアの鍵を掛ける弊害を充分認識していて、試行錯誤している。引き続き努力されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する事業グループ全体で、災害時の協力体制が構築されていて半年に一度、消防署の立会いを得て火災訓練をしている。利用者も避難経路をたどる訓練をしている。また、次回の運営推進会議にて議題に挙げる予定がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じた食事や水分の摂取量は記録している。その上で摂取量の少ない人には個別に、補助食品や嗜好品などで対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の話し声や食事時に流れる音楽はソフトで適度な音量であり、採光も二重カーテンで調節している。共用空間はゆったりしていて廊下にはソファなども置かれている。利用者や職員、ボランティアの作品が飾られていて温かい雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の引き戸には手作りの紙人形などが貼り付けられていて、利用者が自分の部屋と認識できるようになっている。居室内に手すりも取り付けられ安全性への配慮もあり、使い慣れたものを持ち込んで居心地の良い居室となっている。		